

# ユースウェアの先達

高橋三雄先生への謝辞

経済学部

高辻 秀興

高橋三雄先生は、国際産業情報学科が設置されたとき経営情報科目の担当教授として就任された。爾来今日まで、常にその時どきの先端に行く実に多様な情報ツールの使い方を、自らいち早く試し、その効能を周りに紹介し、専門メディアのコラムで記事にするなどして、ひたすら伝道に務めてきた。食でいえば美味しんぼの先達、情報でいうと「ユースウェア」の先達ということになる。

ユースウェア (useware) とは一般に「情報システムのハードウェアやソフトウェアを活用する技術やサービスの全体を指す」用語である。しかしそれだと言ひ回しがカタイ。高橋先生のユースウェアは、もっと軽妙でクールなものである。

思うに――、理学は役に立つか不明でも真理を探究する。工学は真理が不明でも役立つことを追究する。技学は四の五の言う前に作ってみせる。といったそれぞれのスタンスがある。高橋流ユースウェアのスタンスは「高度なツールでも楽しげに易々と使ってみせる」という点にある。とりわけ経営的意思決定の分野で、意思決定者が置かれている問題状況の解決のため（ニーズ）、新たな情報ツールの革新技術（シーズ）をどのように活かせばよいかを具体的に演じて見せるのが真骨頂である。

ユースウェアをテーマとした高橋先生の活動は、以前の職場で経営システム科学の分野の大学院生を指導していた頃から始まっていた。実は私は先生の以前の職場に一度お邪魔したことがある。放送大学の仕事で経営情報学の分野の授業番組を作成していただけないかお願いに行ったのである。一家を成した長老先生たちが「ナニ、細かい打合せは無用、高橋君に任せればイイヨ」とだけ言っていた。要するに私はあいさつに顔を出すだけでよいということだった。東京の茗荷谷駅の近くにある筑波大学大学院の研究室を訪問してビックリした。部屋の中は多数のパソコンと関連機器が演習机の上をぎっしり占めかつ無数のソフトの空箱が山のように積み重ねられていたのである。さながら実験室のようであった。

さて、ユースウェアの伝道師高橋三雄を語るとき、これに触れずして師を語るなかれというメメントがある。専門誌上でのユニークなコラムの掲載である。

内容はその時どきの先端的な情報ツールの紹介やそれを活かしたライフの紹介である。注目すべきはその分量である。20年以上にわたって掲載されてきたコラムの分量は、師の伝道の仕方が半端なものではないことを物語っている。ここでその全貌を紹介できないが一端を挙げると次のものがある。なお頁数はB5判2段組み換算である（アバウトだが）。

- (1) コンピュータ・サイエンス誌 bit「ソフトウェア探訪」No. 1～99（終了）、1990年1月～1998年3月（月刊）、全318頁
- (2) Windows コンソーシアム「Windows ソフトウェア事情」No. 1～67（終了）、1995年3月～2000年9月（月刊）、全約335頁  
[http://www.wincons.or.jp/view/view\\_saisin\\_sohuto.html](http://www.wincons.or.jp/view/view_saisin_sohuto.html)
- (3) 統計と情報の専門誌 ESTRELA「探訪 広がりを見せるパソコンソフト」No.1～133（終了）、1998年4月～2009年11月（月刊）、全646頁
- (4) ROCKメルマガ「身近な情報技術」No. 1～134（現在連載中）、2008年2月1日～2013年10月26日最新号（隔週発行）、全249頁（現時点）  
<http://rock.reitaku-u.ac.jp/mag/2013052714023984.html>

取り上げられている事項を、粗密再掲表記不整合を問わず目についた順に列挙すると次のようになる。マルチメディア、PC上のAI/エキスパートシステム、DSS（Decision Support System）ソフト、KT（Kepner-Tregoe）法支援ソフト、時間管理ソフト（PERT/CPM支援）、SD（System Dynamics）シミュレーションツール、PC上のLP（Linear Programming）、ビジネスゲームソフト、通信ソフト、サウンドソフト、地図ソフト、ゴールシーキングソフト、モンテカルロシミュレーション型金融意思決定支援ソフト、プレゼン、DTP、グループウェア、SDソフト、発想支援ソフト（KJ法など）、意思決定支援ツール、マルチメディア、マルチメディアの原点はゲームの世界、電子ファイリングシステム、はずかしながらインターネットの話題、AHP（Analytic Hierarchy Process）ソフト/“dig around the tree”、データウェアハウス、MBA-ware、デジカメ、TV、地図ソフト、山、DSSとしてのGIS、カーナビ、インターネットと地図、古地図、統計書CDの地図、英語学習とMP3プレイヤー、地図ソフト、GPS、PDA、中高年のパソコン活用、ビジネスゲーム、意思決定のための情報技術活用、DPL（モデル作成と意思決定支援）、発想支援ソフト（親和図法、連関図法、系統図法、マトリックス図法、PDPC法、アローダイアグラム、特性要因図）、超発想法ソフト（KJ法など）、AHPソフト、GIS、SDソフト、ゲーム理論とビジネスゲーム、地図ソフト、GISソフト、等々。

なお「Windows ソフトウェア事情」では2回にわたって本学を取り上げて紹介していることも、ここで触れておかねばならない。多謝。

- 第41回「瑞浪（みずなみ）から愛をこめて」（1998年6月）

<http://www.wincons.or.jp/view/vol49/page31.html>（麗澤大学の初期のHPがある！）

- 第42回「電子ブックに見る麗澤大学誕生のいわれ」（1998年7月）

<http://www.wincons.or.jp/view/vol50/page43.html>

私個人は、もともとテキストエディタとコンパイラだけの静かな生活を望んでいたがそうはならなかった。むしろ高橋先生からKJ法のツールとシステムダイナミックスのツールを紹介してもらったおかげで、授業、ゼミ活動、市民ワークショップなどで活用することができて大変ありがたかった。

節目なのでやむを得ず師は本学を退職することになる。が、これでユースウェアの高橋ワールドが終わることはないと思う。高橋先生、さらなるご活躍を期待しています。どうかお元気で！





### 高橋三雄教授 略歴

- 1966年 一橋大学商学部卒
- 1966年～1967年 野村総合研究所
- 1967年～1970年 一橋大学大学院商学研究科修士課程（商学修士）
- 1968年～1969年 米国ペンシルバニア大学 Graduate School of Arts & Science (Master of Arts)
- 1970年～1973年 一橋大学大学院商学研究科博士課程（単位取得退学）
- 1973年～1975年 横浜市立大学商学部助教授
- 1975年～1990年 成蹊大学経済学部助教授、その後、教授

その間、1984年～1986年、大学派遣の在外研究という立場で、米国南カリフォルニア大学ビジネススクールにおいて、当時の米国パソコンソフトの収集、調査を行った。その成果は月刊雑誌「プロンプト」（日刊工業新聞社）の「米国パソコンソフトレビュー」というタイトルの連載記事としてレポートした。この連載は帰国後も続き、連載は5年にわたった。

- 1990年～1998年 筑波大学社会工学系教授
- 1998年～2013年現在 麗澤大学国際経済学部、経済学部教授

## 高橋三雄教授 主要業績

### 単著

1. 改訂版情報基礎管理学—経営意思決定のための情報技術活用、放送大学教育振興会、2000年
2. 50歳からのパソコン交遊術、麗澤「知の泉」シリーズ、2000年
3. 実戦Excel入門、岩波書店、1999年
4. マルチメディアを楽しむ、岩波書店、1997年
5. パソコンソフト実践活用術、岩波新書、1997年
6. データの分析と情報の整理、岩波書店、1996年
7. ビジネス情報技術、日科技連出版社、1996年
8. 情報基礎管理学—オフィスにおける情報技術の活用、放送大学教育振興会、1996年

### 単著 (Amazon Kindle版「70歳からの電子出版」シリーズ)

1. 「世界一周の夢」実現へ向けて、2013年
2. 「地図はおもしろい」、2013年
3. 「米国大自然の旅」、2013年
4. 「学びへのスタート」、2013年

### 共著

1. 経営情報システム第3版、中央経済社、2004年
2. 意思決定の経済分析、有斐閣、1995年

### 雑誌原稿

1. 「身近な情報技術：「教えるツール」として」、『麗澤大学紀要』第88巻、2009年7月
2. 「身近な情報技術：情報のスクラップと有効活用のために」、『麗澤大学紀要』第86巻、2008年7月
3. 「身近な情報技術：知るを楽しむツールとして」、『麗澤大学紀要』第84巻、2007年7月
4. 「経営ゲームと経営教育における可能性—万年筆産業モデルの開発と運用—」、『麗澤経済研究』第13巻第2号、2005年9月
5. 「教育用GISソフトのサーベイ：スーパー出店戦略分析を例として」、『麗澤経済研究』第13巻第2号、2005年9月
6. 「テキストマイニングツールによる広告誌面の分析」、『麗澤経済研究』第11巻第2号、2003年9月

7. 「意思決定支援ソフトについての一考察」、『麗澤経済研究』第11巻第1号、2003年3月
8. 「情報収集のための身近な情報技術」、『麗澤経済研究』第10巻第1号、2002年3月
9. 「情報技術を使った一般科目教育」、『麗澤経済研究』第7巻第2号、1999年9月